

東京オリンピックに向けて（1950～1964） その4

《1959年、新幹線着工、オリンピック東京開催通知、首都高高速道路公団の創設》

1959年（昭和34）、私は5歳でした。この年は、早春にテレビ局の開局が相次ぎ（注1）、週間マンガと週刊誌が創刊（注2）され、4月10日に皇太子・美智子さまのご結婚があり、その約1ヵ月後の5月26日、オリンピックの東京開催通知が舞い込んできます。

そして、オリンピック開催に合わせ、東海道新幹線、首都高速道路など交通インフラの建設が一気に加速していきます。

東海道新幹線は、1961年（昭和36）5月に、世界銀行が融資することが決まって建設に拍車がかかり、1964年（昭和39）7月1日、東京―新大阪間が全通して川崎市でレール締結式が開催され、7月25日から全線試運転が開始。オリンピック開会式の9日前の10月1日、東京―新大阪間が開業しました。

首都高速道路は、同年1959年（昭和34）6月に首都高速道路公団を発足させます。そして1号、2号、3号、4号各線と4号分岐線がオリンピック関連道路として優先的に建設されることとなり、1962年（昭和37）12月に1号線京橋～芝浦間4.5kmの供用を開始。

奇しくも東海道新幹線開業の日の1964年10月1日、都心環状線浜崎橋JCT（港区）が完成して、都心環状線と羽田空港までの首都高速が繋がり、羽田から代々木（注3）まで開通。そのときまでに開通した首都高速道路の総延長は、約32kmでした。

また、オリンピック開催は、地下鉄の建設も促進し、営団地下鉄日比谷線が全線開通するとともに、都営地下鉄浅草線が一部区間ですが開通しています（注4）。都営浅草線の電源確保のため、多摩川に白丸ダムが建設されました。（注5）

加えて、羽田と浜松町を結ぶ東京モノレールも、オリンピック開会式前の9月17日、開業しました。

さて、この年の秋、9月24日に、伊勢湾台風が東海地方を襲い、6000名

を上回る死者を出したことも忘れていけません。これを契機に「災害対策基本法」が制定され、戦後、各省に分掌された内務省防災行政が、総理指揮のもと有機的に統合されることとなります。

翌1960年（昭和35）は、安保闘争の年でした。日米安保条約の成立を果たして、岸信介内閣は、動乱の責任を取って総辞職。次に池田勇人内閣となって、「所得倍増計画」が打ち出されます。

これは、道路、鉄道、工業用地などの産業基盤の公共投資を軸にした経済成長政策であり、オリンピックに向けたインフラ整備を後押ししたことも付記しておきます。

注1：1月には、NHK教育テレビ、2月には、日本教育テレビ（現朝日放送）、3月にフジテレビ、毎日放送テレビとテレビが開局しました。

注2：3月17日は、「週間少年サンデー」（講談社）と「週間少年マガジン」（小学館）が、また4月8日には、「週刊文春」（文芸春秋）が創刊されました。

注3：オリンピック会場となった代々木は、アメリカが、戦前の帝国陸軍の練兵場を接收して“ワシントンハイツ”という米軍の住宅になっていました。この地が変換されるのは、1961年（昭和36）です。

注4：東京都は、戦災復興事業として地下鉄を構想しますが、頓挫。高度成長期に入り、新たな地下鉄と事業主体が必要と認められ、東京都が地下鉄の建設に参入することが認可されたのは、1956年（昭和31）のこと。その最初の都営地下鉄が浅草線であり、オリンピック開催に向け、営団の日比谷線と競い合うように工事が進められましたが、難工事のため、一部区間の開通に留まりました。

注5：白丸ダムは、秋川溪谷に位置し、1960年（昭和35）に着工され、1963年（昭和38）に完成。所管は、東京都交通局です。白丸ダムは、日本で一番の標高差を誇るフィッシュエスカレーター（魚道）が設置されています。

写真は、①少年マガジン、少年サンデー創刊号(Blog「ALWAYS四丁目 ギドラキュラのお伽話」掲載資料より)、②皇太子・美智子さまご成婚パレード(HP「毎日新聞」掲載写真 4月10日、四谷で撮影されたもの)、③首都高速道路の完成予想図(1964年)(論文「1964年東京オリンピックと都市計画」(北海道大学名誉教授越澤明著)に掲載された資料)、④白丸ダム(WikiPedia 掲載写真)



